

5日 水曜

ルカ

1:57 さて月が満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。

1:58 近所の人々や親族は、主がエリサベツに大きなあわれみをおかけになったと聞いて、彼女とともに喜んだ。

1:59 さて八日目に、人々は幼子に割礼するためにやって来て、幼子を父の名にちなんでザカリヤと名づけようとしたが、

1:60 母は答えて、「いいえ、そうではなくて、ヨハネという名にしなければなりません。」と言った。

1:61 彼らは彼女に、「あなたの親族にはそのような名の人はいりません。」と言った。

1:62 そして、身振りや父親に合図して、幼子に何という名をつけるつもりかと尋ねた。

1:63 すると、彼は書き板を持って来させて、「彼の名はヨハネ。」と書いたので、人々はみな驚いた。

1:64 すると、たちどころに、彼の口が開け、舌は解け、ものが言えるようになって神をほめたたえた。

1:65 そして、近所の人々はみな恐れた。さらにこれらのことの一部始終が、ユダヤの山地全体にも語り伝えられて行った。

1:66 聞いた人々はみな、それを心にとどめて、「いったいこの子は何になるのでしょうか。」と言った。主の御手が彼とともにあったからである。

神様の奇跡は嘆いていた人を幸いで満たします。サカリヤ夫妻に子がなくて嘆いていたところに、素晴らしい子どもが与えられたように。ただしそれは単に子宝に恵まれて御利益があった…というのでは



違います。主の大いなる御計画があったのです。私たちが単に主に祝福を祈るだけではなく、主の御計画や使命のために祈りましょう。それが本当の揺るぎない人生になり、安心なことなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

